

貯法	室温保存
使用期限	包装に表示の使用期限内に使用すること。

抗生物質製剤

処方せん医薬品*

日本標準商品分類番号
872634

*承認番号	22100AMX01119
*薬価収載	2009年9月
*販売開始	2009年9月
*再評価結果	2004年9月

クロロマイセチン[®]局所用液5%

CHLOROMYCETIN[®] TOPICAL SOLUTION

クロラムフェニコール外用液

※注意—医師等の処方せんにより使用すること

【禁忌】(次の患者には使用しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【組成・性状】

1. 組成

1 mL中に次の成分を含有

販売名	有効成分	添加物
クロロマイセチン 局所用液5%	クロラムフェニコール(日局) 50mg(力価)	プロピレングリコール

2. 製剤の性状

微黄色～淡黄色の粘稠なプロピレングリコール溶液で、おいはない。

【効能・効果】

〈適応菌種〉

本剤に感性のブドウ球菌属、レンサ球菌属、肺炎球菌、腸球菌属、髄膜炎菌、大腸菌、クレブシエラ属、プロテウス属、モルガネラ・モルガニー、インフルエンザ菌

〈適応症〉

表在性皮膚感染症、深在性皮膚感染症、慢性膿皮症、外傷・熱傷及び手術創等の二次感染、びらん・潰瘍の二次感染、外耳炎、中耳炎、副鼻腔炎、拔牙創・口腔手術創の二次感染

【用法・用量】

(皮膚・外科)

症状に応じて適量を局所に点滴、灌注あるいはガーゼ、綿球に浸して貼付、挿入する。

なお、深在性皮膚感染症に対しては他の薬剤で効果が期待できない場合に使用すること。

(点耳・点鼻)

通常プロピレングリコールで0.5～1%の割合に溶解し、罹患部に適量を1日1～数回用いる。

なお、症状により適宜増減する。

(歯科・口腔外科)

本剤を綿線、ペーパーポイントに浸して用いたり、局所に直接注入するかあるいはドレナージガーゼに含ませて挿入する方法がとられる。

〈用法・用量に関連する使用上の注意〉

本剤の使用にあたっては、原則として感受性を確認し、疾病の治療上必要な最小限の期間の使用にとどめること。〔耐性菌の発現等を防ぐ。〕

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

(1) 感作されるおそれがあるので、観察を十分に行い、感作されたことを示す兆候(そう痒、発赤、腫脹、丘疹、小水疱等)があらわれた場合には使用を中止すること。

(2) 長期間連用しないこと。

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
過敏症 ^{注1)}	発疹、接触性皮膚炎
長期連用 ^{注2)}	内服、注射等全身投与の場合と同様な症状

注1) 使用を中止すること。

注2) 長期連用は避けること。

3. 適用上の注意

使用部位：

- (1) 眼科用に使用しないこと。
- (2) 注射用として使用しないこと。

【薬効薬理】¹⁾

抗菌作用

広範囲の抗菌スペクトルを有し、グラム陽性・陰性菌等に作用する。

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：クロラムフェニコール(Chloramphenicol)

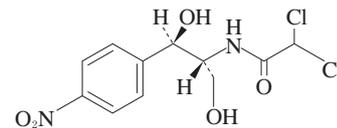
略号：CP

化学名：2, 2-Dichloro-N-[(1R, 2R)-1, 3-dihydroxy-1-(4-nitrophenyl)propan-2-yl]acetamide

分子式：C₁₁H₁₂Cl₂N₂O₅

分子量：323.13

構造式：



性状：白色～黄白色の結晶又は結晶性の粉末である。

メタノール又はエタノール(99.5)に溶けやすく、水に溶けにくい。

【包装】

クロロマイセチン局所用液5% (瓶) 25mL

【主要文献】

**1) 第十六改正日本薬局方解説書 廣川書店 2011:C1494-1497

【文献請求先・製品情報お問い合わせ先】

第一三共株式会社 製品情報センター
〒103-8426 東京都中央区日本橋本町3-5-1
TEL: 0120-189-132

製造販売元



Daiichi-Sankyo

第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1